

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「個人の尊重」「持てる力を引き出す」「地域社会の中でのふれあいを大切に」を基本に入居者の皆様が地域社会の一員として可能な限り自立した生活が送れるよう支援すると明示しています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「運営理念」をホーム内の見やすい掲示板に掲げ、管理者及び職員全員で日々確認しながら実践に向けて取り組んでいます。	○ 今後も理念に基づいたサービスの提供ができるよう職員全員で取り組んでいきます。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の保育園児との交流、町内のお祭り行事への参加等、地域に開かれたホームを目指し取り組んでいます。	○ 地域の方が参加する運営推進会議での活動報告、家族へのホーム便りなどで、理解への取り組みを伝えています。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	入居者との毎日の散歩時、行き会う人への挨拶や近所のスーパー、商店での買い物利用で顔見知りとなれるよう心掛けています。近隣の方への、施設見学の受け入れは随時行っています。近隣の小学校の「こども100当番」の受け入れ表示しています。町内会に加入し、お祭りの参加したり、正接行事に招待したりと地域交流に努めています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員が行い意義を理解している。評価結果についても話し合い、改善すべき点の検討を行っています。	○ 評価内容を理解し、活用していけるようにします。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス状況や評価への取り組み等、年に一度は会議の中で報告し、意見交換をしています。	○ 地域の方々と意見交換を活発に行ない、サービスに繋がられるようにします。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じ運営上の相談をし、助言や指導をして頂いています。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要のある方への相談支援の用意がある。外部研修に参加している。	○ 勉強会を行い、管理者や一部の職員だけでなくスタッフ全員が理解できるよう取り組んでいきます。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入居者へのサービス実施に問題がないか職員間で話し合い、カンファレンスで確認し、常に防止に努めている。	○ 研修が開催された際は、積極的に参加し、ホーム内で勉強会を行っています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族からの意見や要望を聞き取り、十分な説明と話し合いにより、当ホームの理解と納得をして頂いてから契約をしています。また退所に際しても入居者の状態に納得できるよう説明しています。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不安や不満等の意見を受け止め、ミーティングやカンファレンスで話し合い、解決できるようにしています。	○ 運営推進会議の議案に取り入れ、意見交換します。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、入所者の様子や体調について伝えていきます。金銭の出納については、個々に報告、確認して頂いています。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置があります。面会時や面談等から聞き取り、全職員に伝わるよう会議のなかで話し合い解決できるようにしています。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に意見を聞いたり、ユニット会議の開催時に意見、要望等を聞くようにしています。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要時調整できている。 緊急時の勤務交代もスタッフの協力が得られている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特別な事情がない限り、職員の配置替えは行わないようにしている。	○	離職者が出た場合、引継ぎの機関を十分に取り、問題の発生を出来るだけ防げるようにします。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修・介護研修に参加し、報告会を開き全職員で共有、勉強する機会を作っています。		研修参加により、介護現場の取り組み方や意識が積極的になります。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの情報交換や相互の訪問等でサービスの向上に活かしている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	現場の状況や問題など気軽に話せる会食や個別面談等で改善できるようにしています。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自の希望を受け、資格習得の為の支援や研修の機会を積極的に与えています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	心身状態や入所への不安、要望等について、ゆっくりお話を聴き、相談できるよう面談時間を取っています。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ、情報提供やサービスの説明をします。また支援が困難な場合、対策を十分検討してから始めるようにしています。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学してもらい、施設の雰囲気やスタッフの対応等を見ていただき安心してもらってから、今後の生活相談をしています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の能力に応じ、可能な方とは掃除や調理を一緒に行い、その中で学ぶこともあります。また時間の許す限り、一緒に過ごし関わられるよう努力しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、スタッフから積極的に声を掛け、生活の様子等を伝えることで、家族の思いも聴けるようにしています。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設行事と一緒に参加していただいたり、面会の際は、ゆっくりしていただく為に日課を調整し、家族との時間を大切にしています。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別ケアにより、これまでの生活習慣を大事に支援しています。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	外出や行事、レクリエーション活動等、一緒に楽しめる機会を作りながら交流支援をしています。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されている場合は面会に行ったり、家族から相談があれば助言できるようにしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話情報やコミュニケーションの関わりから汲み取るようにしています。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集、入所者との会話等からも情報を得てスタッフ間で共有、把握するように努めています。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメント情報や現状の問題点などスタッフ全員が把握に努め、入所者の一日の過ごし方に反映させています。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の観察情報や家族との面談、職員からの情報や意見を取り入れたプラン作りに努めています。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にサービス評価を行い、スタッフ全員の意見から計画見直しや継続を行なっている。また問題発生があればその都度、計画変更への検討、作成を行なっています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個々に記録し、ケアの中での気づき等申し送りなどで情報を共有、ケアの見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体であるクリニックとの連携により、健康管理と急変時の迅速な対応が図られています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入所前の担当民生委員の来訪、地域消防団、保育園町内会との交流、学生ボランティアの受け入れ等の協力を得て支援しています。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や身体機能に応じた訪問サービスの理容、美容、歯科等を受けられる支援をしています。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき、情報交換や協力が得られています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	指示、アドバイスなど随時受けられます。	
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	看護師と情報の共有もあり、相談等で健康管理を行なっています。	
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	医療機関との連携を図り、本人、家族の意向を確認、十分に話し合い退院後も安心して生活できるよう相談を受けています。	
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	本人、家族の意向を聞き、主治医と相談しながらできる限りの支援を検討し、方針を決めています。	
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	重度の病状悪化や終末期には対応していません。	○ 方針を検討していきます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	アセスメント情報を伝え、本人や家族に関わる関係者と十分な話し合いを重ね、安心して復帰できるよう努めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や着替えについては、特に入所者のほこり、プライバシーに気を配りながら対応している。記録情報についても保管、取り扱いに注意しています。		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の自己決定や希望が出せるような場面作りやその方の意思に沿って暮らせるよう支援しています。		
49 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調やリズムを尊重し、状態を見ながら入所者のペースに合わせた支援をしています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個人の要望に応じて理容、美容院へ通える援助をしている。外出や行事の際も、その方らしいおしゃれができるように支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付け等、それぞれの機能や能力に合わせて行なっていただいている。	○	機能的に困難者へは調理の過程を見てもらったり、盛り付けながら食材の説明をしたり、少しでも関わりを持ち、楽しんでもらえるようにしていく。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を把握し、可能な限り提供できるようにしています。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、経過を見ながら自立を目指した対応、誘導をしています。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日や時間帯は決められていますが、その日の体調や希望に合わせて調整をしています。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	疲れた様子や落ち着かない様子が見られた場合は、居室で休まれるよう誘導、照明にも配慮し、静かな環境を整えます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	雑巾縫いや新聞紙、広告紙で作るくず入れ等の担当、食事の後片付け、掃除等、それぞれの機能や生活歴に配慮した役割作りをしている。	○	個別外出を増やし、折々の季節に触れられるように気分転換の機会を作っていきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や管理可能な方には持たせ、預かり者には財布を渡し、買い物の支払いをする機会を作っています。	○	あまり希望のない方も、時々スーパーなどへ一緒に行き、刺激となるよう社会参加の支援をしていきます。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば、買い物、ミニドライブ、散歩等、個別での外出支援をしています。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入所者の希望や思いを聴き取り、支援できる様にしている。施設外出行事では家族が参加できるよう計画し、一緒に楽しんでいただいています。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を協力により、いつでも電話を掛けられるようにしている。また手紙を出したい方には、住所の代筆、切手、便箋等の用意があり、希望の支援をしています。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	スタッフはいつも笑顔を心掛けて対応するように努めている。来訪者の方との時間は、居室でお茶を飲みながらゆっくり過せるよう配慮しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修で学ぶ機会を作り、カンファレンスや会議等で話し合い、スタッフのケアへの認識を図っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵をかけず、各ユニットの入り口も開放し、自由に行き来できます。外出傾向や外に出たい様子があれば声を掛け一緒に散歩する等して気分転換を図り、鍵をかけないケアに取り組んでいます。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はスタッフ同士が声を掛け合うなどして、入居者の状況や行動が把握できるように努めている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、果物ナイフ、縫い針等、入居者それぞれの状況に合わせて見守り、使用後は保管の確認や預かりなどの対応をしています。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故事例などで検討会を行い、対応策や予防策をスタッフ全員が共有し、事故防止に努めている。	○	リスクマネジメントをスタッフ全員が学び安全に生活が送れるように取り組んでいきます。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルや連絡網等で実施訓練を行なっている。急変時の処置や対応については、母体であるクリニックと迅速な連携を図り、早期対応に努めています。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や消火器の使い方を定期的に行っている。訓練には町内会の協力も得られており、避難路や避難場所等の確認をしてもらっています。	○	非常食や水の保管、その他必要品を検討し、備える。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	身体機能、行動により、起こりえる危険や事故等について入居時に説明し、ケアプランで支援経過を確認していただいています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェックで体調異常や様子に変化が見られた場合は、かかりつけ医と連絡を取り、状態に応じて受診したり、往診を依頼したりしています。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情を整理保管し、スタッフ全員が共有出来るようにしている。処方の変更時は申し送り記載で確認できるようにしています。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝乳製品を提供、必要な水分摂取の声かけと体操や運動への誘導をしている。排便困難者へは、適宜下剤でコントロールし、宿便を予防しています。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、嗽、義歯洗浄は入居者の状態に合わせて支援しています。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量、食事量をチェックを行うことで、摂取状況を把握し、嗜好や調理の工夫で必要量が摂れるよう支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルにより実行している。特に帰設時の手洗い、嗽は徹底して行っています。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の安全性を確認、調理者の手洗いの徹底、台所用品の消毒など毎日の衛生管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りの鉢植えやプランターには常に季節の花が咲いており、入り口のベンチに腰掛け、誰もが一休みできたり、玄関に椅子を置き高齢者が座って靴が履けるよう安全への工夫をしています。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が集まる居間や食堂は過程の雰囲気を保てるようにし、各テーブルに季節の花を生け、観賞しながらお茶を飲み楽しんでもらっている。また廊下掲示板に入居者の作品を飾るなどして活動や季節感が感じられる工夫をしています。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の奥が畳みスペースになっており、寛ぎの場として活用されている。また廊下中央にベンチがあり利用者同士の少しの会話にも座って話せる工夫をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時、本人が使い慣れた家具、生活用品、装飾 品等を持って来ていただいています。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	毎日の掃除時に各居室、共有部分の窓を開け、換 気に努めている。また外気や活動状況によっても 各場所の温度調整を行っています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	高い所に物を置いたり、危険な物や移動の障害に なる物がないかを確認し、本人の機能に合わせた 環境作りに努めています。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	共同ゴミ箱の利用、洗濯、掃除用具等、自主的に 使えるよう設置しています。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	敷地内に花壇や菜園を作り、生け花や野菜の収穫 を楽しんでいる。また2階エントランス部分の椅 子に腰掛け外の風景を眺め季節を感じてもらえる ようにしています。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
95	職員は、活き活きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・街中に施設があり、気軽に商店街へ出かけ地域の方と触れ合う機会も多く、近隣には小学校や幼稚園、神社などもあり、散歩しながら子供の声や自然に触れることができます。
- ・運営母体であるクリニックと連携を図り、夜間の緊急時にも対応できる体制を整えています。